

1 学校教育目標
「心豊かに 生き生きと学ぶ 巨勢っ子」の育成 - 「本気 元気 根気」の「三気」を合い言葉に活動する子どもの育成 -

総括的な教育目標を、より具体的な児童生徒や教師、学校の「姿」としてイメージする

2 学校経営ビジョン
「めざす子ども像」 温かい心をもつ子ども(やさしい子) 生き生きと活動する子ども(かしこい子) 地域とふれあう子ども(たくましい子)
「めざす学校像」 温かく、学び合う学校 明るく、楽しい学校 落ち着きと、気品のある学校
信頼され、地域と共に歩む学校

このうち、特に今年度力を入れるものを絞り込む.....絞り込むに当たって、特に、前年度、「何ができて、何ができなかったか」を参考にする

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
確かな学力の向上 豊かな心を育む教育の推進 ふるさとを愛する教育の推進	・基礎基本の定着のために、聞く態度の育成と、家庭学習の時間確保に重点を置く。 ・「あいさつ」は目に見えて向上が見られた。今年度は「自分から先に」と、さらに高いレベルを望む。 ・キャリア教育、人権・同和教育によって、自尊感情を高め他者理解を促す。 ・地域の方々の関心と協力を確実に得られるようになった。今年度は、互恵関係をもとに学校から地域へとさらに一歩踏みだし、地域の方々の協力関係を強化をする。

重点目標をそれぞれ再掲し、重点目標ごとに、成果や課題を具体的に評価するためには、どのような評価項目や指標を盛り込むべきかを考

5 総括表
確かな学力の向上

	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	学力向上	・課題と指導方法的確性を検証 ・「まなび合い」による理解の強化	全国学力学習状況調査における算数科の得点を前年度よりアップさせる。 指導方法の工夫改善と少人数IT指導の充実を努める。 「はげみタイム」の徹底と充実による基礎基本の定着を図る。	教頭 教務 石橋 各研究部員	・国語科、算数科ともに不得意領域の得点を5%アップさせる。 ・全児童に新学習指導要領に準拠したはげみプリントを用意する。 ・学力不備児への計画的個別支援、友達どうしの支援の結果を単元ごとに検証する。
教育活動	家庭学習習慣の育成	・学習習慣の定着による学力の向上	・毎日の家庭学習最低時間は、「10分×学年」とし、達成率を全児童の50%以上とする。	教頭 教務 石橋 各研究部員	・「家庭学習の手引き」の十分な説明による家庭での学習時間の確保(最低10分×学年)し、実践立50%を超える。 ・学期毎に家庭学習時間状況の調査を実施し、その伸び
教育活動	読書指導	・読解力向上のための読書指導 ・心を育てるための「うち読書」等の読書習慣の形成	・全低学年児童 年間最低50冊以上 ・全中・高学年 年間最低60冊以上 ・家庭読書習慣の定着を促す。	今村 田内	・月2回の「読み聞かせ」の完全実施 ・音読の宿題を含めた家庭読書の機会を週4回以上とする。

豊かな心を育む教育の推進
--------------

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	人権・同和教育の推進(いじめ・不登校対策を含む)	・自他の良さや違いを認め合い尊重し合う心の醸成	・実践計画書に基づいて、人権・同和教育の8視点を取り入れた授業を必ず実践をする。 ・各学期ごとに人権集会を開催する。	石橋 野田雅 人権・同和 教育部	・毎週火曜日の朝の献旗による異学年集団活動の実施率を計画の95%以上とする。 ・毎月1日の「いじめ、命の日」の実施率を100パーセントにする。 ・人権集会を学期に一回、いじめに関するアンケートを年1回実施する。
教育活動	心の教育	・道徳の時間の授業公開 ・あいさつと望ましい言葉づかいの定着	・年1回保護者参加型の道徳の授業を行う。 ・生きる力としての「あいさつ」と「ことばづかい」の大切さを指導する。	西川 今村 学年主任	・「おもいやり」や「生命尊重」については、道徳だけでなく他の領域・教科と関連づけた取り組みを最低1回は実施する。1・2年の生活科、3年生以上、総合的な学習等)
教育活動	キャリア教育	・「学ぶこと生きること、働くこと」の意味を知る。	・学ぶこと、生きること、働くことの3つを互いに関連させ体験にもとづいた知識の定着を図る。	田平 西川 武藤	・道徳の授業の中で「学ぶこと、生きること、働くこと」の3つを視点として組み合わせた授業の展開を学期に1度実施する。 ・異学年交流、地域各種団体との交流による体験活動を最低年に1回は実施する。
教育活動	健康・体づくり	・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・外遊びの励行	・養護教諭、栄養士と連携し、健康教育、食育の授業を各学年1回以上実践する。 ・各クラスでの「みんなで遊ぼう」の呼びかけ	大塚 山口 野田興 飛木	・毎月1回以上、給食と保健だよりを発行し、食の大切と健康の大切さを指導する。 ・各クラスで、みんなで遊ぼうを週に1回以上計画し、達成率90パーセントをめざす。

ふるさとを愛する教育の推進
---------------

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	魅力ある学校づくり	・農業や伝統芸能等の体験による郷土理解	・農業に携わったり、伝統文化を大切にしたりしている地域の方との協力、ふれ合いを実体験する機会を設定し、郷土「巨勢」への思いを深める。	原 秀島 前田 三東野	・幼保小連携とも関連させ、米づくりを幼稚園・1年生・5年生で季節感を十分に感じさせながら1年間継続する。 ・2年生と5年生で東分下にある玄米流花浮立を体験し、地域の良さを実感するとともに、最低1回は地域の方々に披露する。
教育活動	市民性を育てる	・郷土、地域の「ひと、もの、こと」の活用 ・公民館との連携協力	・さわやかグループと地域の方々の共同によるボランティア活動を実施する。 ・巨勢っ子見守り隊との年3回の集団下校等で、地域の「人、もの、こと」への感謝の気持ちを育てる。	原 秀島 前田 三東野	・巨勢100年史をもとに、地域の歴史を知り、寺社、遺跡等の見学を行う。 ・「町民夏祭り、独居老人をはげます会、長巻づくり」等に参加する児童数70名以上を達成する。 ・幼保小連携会議3回以上、連携活動5回以上実施する。
教育活動	幼・保・小並びに小・中連携	・幼稚園や保育園との連携強化 ・城東中学校区での連携強化	・幼・保・小連携協議会を年間3回以上行い互いの教育方針、活動内容、園児・児童等の理解を深め合う。 ・小・中連携による相互訪問を年間5回以上開催す	教頭 教務 1・2年担任	・城東校区推進プロジェクト総会を年2回、各部会交流会を年3回以上実施し、連携強化を図る。

本年度の重点目標の評価項目として含まれていない共通評価項目がある場合に記入する。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目
----------------------

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	学校経営方針	本年度の重点目標の周知	・教職員、児童、保護者に周知する。認知度については、85パーセント以上に周知させる。	校長 教頭	・PTA総会で学校経営方針(三気の合い言葉)と重点項目を表明し、学年便り、学級だより等でも最低学期に1度はこれらの説明を行う。
学校運営	教職員の資質向上	教職員の意識改革及び職員研修、授業研究の充実	職員研修は年間10回以上とし、研究授業の全員実施と授業研究会での協議内容の質を高める。	校長 教頭 石橋	・1学期に人権・同和教育授業研究、2学期に算数及び書写、家庭科の授業研究について、組織力を生かしグループで行うとともに、誰もが1回は授業研究の公開を行う。
学校運営	危機管理体制の整備	児童と教職員の安全と交通事故、生活事故の防止と危険回避能力の育成	・1年間児童と教職員の交通事故0を徹底する。 ・新道インフルエンザ(強毒性)や不審者など、喫緊の事態における危機体制の確立し、欠席者の前年比5パーセントカットを目指す。	教頭 大塚 武藤	・職員会議では毎日交通事故防止を教職員に通知する。 ・1学期までに安全部に対して危機管理体制の見直しをさせ、特に地震避難訓練を確実に実施する。
教育活動	家庭との連携	本年度重点目標の各家庭配布 ・教育講演会等各種行事への参加依頼	・授業参観、フリー参観出席率を前年度比5%アップさせる。 ・年3回実施される「見守り隊」の参加者数を、保護者を中心に10%増やす。	校長 教頭 武藤 野田雅	・ホームページ、学校情報メール等による学校行事の案内回数を前年度比10%アップさせる。 ・全教職員は、地域活動に、それぞれで最低1回は参加する。

は共通評価項目、 は独自評価項目